

65th

市美展

入賞・入選目録



書道部門 特選
「 偶桓詩 」



洋画部門 特選 「 祈 」



グラフィック部門 特選
「 城山の春 」

会期:平成27年7月4日(土)~7月17日(金)

【休館日:7月7日(火) 7月14日(火)】

会場:延岡総合文化センター展示室1・2

【開館時間:AM 9時 ~ PM 5時】

主催:第65回延岡市美術展覧会実行委員会・延岡市・延岡市教育委員会・延岡市文化連盟

◇ 後 援 (順不同) ◇

宮崎県・宮崎県教育委員会・延岡市議会・延岡商工会議所・(一社)延岡市医師会
 延岡農業協同組合・(一社)延岡市西臼杵郡薬剤師会・旭化成(株)延岡支社
 センコー(株)延岡支店・清本鐵工(株)・宮崎日日新聞社・夕刊デイリー新聞社
 (一社)延岡市歯科医師会



洋画

特選	延岡市長賞	田中節子	祈	油彩
準特選	宮崎県教育長賞	柳田也寿志	散歩	油彩
準特選	延岡市文化連盟会長賞	アーナー恵子	恋をした風神・雷神	水彩
奨励賞	延岡市教育長賞	石丸圭汰	再出発	油彩
奨励賞	旭化成(株)延岡支社長賞	ゼンヤ・フェドチェンコ	無題 I	版画
奨励賞	延岡農業協同組合 代表理事組合長賞	落合直文	母里の記憶	油彩
奨励賞	清本鐵工(株)社長賞	林弘之	ウィンチ	アクリル水彩
奨励賞	延岡市美術展覧会 実行委員長賞	赤澤隆	サウナ	油彩
努力賞		藤岡彩	変わりゆく	油彩
無鑑査		後藤光雄	サイバー攻撃	アクリル水彩
無鑑査		八木隆幸	まるの詩2015・6	油彩
無鑑査		クリストファー・トラウトマン	パラレルストーリーズ	インク



入 選



赤星 岳	制作	油彩	末吉美奈	川筋	油彩
池田見一	長い歴史のご対面。 おゝ歓喜の歌を!!	油彩	鈴木桜	日が照らす	油彩
井出静恵	一心	油彩	高橋絵美里	時想	水彩 パステル
今村光子	水辺の散歩道(九重町)	油彩	武田昭三	浜の追憶	油彩
岩崎奈美子	疾走	油彩	茶屋本咲希子	解放	油彩
上山晴久	浚渫船-II(再生)	油彩	中城廣美	月食と赤に変わる岩	油彩
大久保安一	閉校時の城小学校	水彩	成合英子	現場	水彩
大山久雄	休憩時間	油彩	野村幸枝	なに、なに? 私も入れて!	油彩
金澤佳代子	チェスキー・クルムロフ・プラハ	油彩	畑田礼子	夜明	水彩
金子いつ子	野ばら咲くころ	油彩	濱田すず子	溪流	油彩
川崎圭子	暮色	油彩	東 咲良	佳客	油彩
木村マシ子	やさしい時間	油彩	廣江友久	ガウディの凍った世界	油彩
久保ケイ子	競い咲く	油彩	廣瀬貴至	マイ リポート	油彩
黒木光子	廃墟(軍艦島)	アクリル	福光透也	境	油彩
古小路禮子	ごはん粒(2)	水彩	三浦憲治	群れる	油彩
志田嘉嗣	城の見える風景	油彩	三谷文男	近し	油彩
首藤孝子	天の邪鬼(83才自画像)	油彩	八木千穂子	庭園X I 2015.6	水彩
白石 幸代	夏・少女	油彩	山脇春奈	光	油彩
水津保	ひ孫の大作に ひい爺のひととき(B)	油彩	陸丸敦子	日の影町 糸平	油彩

日本画・水墨画・ちぎり絵等



特選	延岡市長賞	富高富子	ひまわりの詩	ちぎり絵
準特選	延岡市文化連盟会長賞	工藤晏生	ガイ 涯	日本画
奨励賞	延岡市医師会長賞	佐多光夫	一瞬 目線は上に	水墨画
努力賞		池田晃二	祈り	剪画
無鑑査		原辰義	夕暮れどき	剪画

入選

岩切恵美子	窯炎	ちぎり絵	中島英陸	綾の古民家	剪画
岡田洋子	六月の雨	ちぎり絵	森福子	ねぎぼうずの詩	ちぎり絵
甲斐光子	記念日	ちぎり絵	山内登紀子	夜桜	日本画
坂本真理	IRICO	切絵	湯地イチイ	花のかおり	ちぎり絵
佐藤藤美	見立溪谷	水墨画			



彫刻・工芸



特選	延岡市長賞	工藤武人	縄文灯り	陶芸
準特選	延岡市教育委員長賞	黒木良一	僕から彼女へのプレゼント	友禪染
奨励賞	延岡市教育長賞	堤和子	こもれび	パッチワーク
奨励賞	延岡市美術展覧会 実行委員長賞	山本正義	カゲキヨ 景清	彫刻
努力賞		白瀬叔子	初夏のかおり	友禪染

無鑑査		芝行則	創世7:24-8:20 アララト山-2015	彫刻
無鑑査		中村有子	キンサイロツカクチュウキ 金彩六角柱器「オアシス」	陶芸
無鑑査		武田弘子	52億4000万km、 はやぶさ2の成功を祈る	友禪染

入選

岩谷直子	島の風景	紙人形	関武司	かまくら	陶芸
上村洋子	夕映	陶芸	高見昭夫	涼感花かご	竹細工
川崎えつ子	バリ島の舞姫	刺繍	田口京子	カラーの舞	着物
工藤ほなみ	華やぎ	レザー クッション	戸高房子	鯉	陶芸
黒木千里	条黒白蝶	陶芸	成岡コマ子	凜として	友禪染
黒木英勝	金箔溶変壺 光砂の舞	陶芸	藤枝晴美	茜色の風景	パッチ ワーク
興侶富美香	桐の花	友禪染	三宅久美子	梅花の香り	友禪染



グラフィックデザイン

特選	延岡市長賞	河野英樹	城山の春
努力賞		渡辺桃香	あくびの魔法
入選		古川友江	鳥の言葉
		立石利宏	地球異変
		松崎空	SOSサイン



書道

特選	延岡市長賞	飯干朗	千峰	偶桓詩
準特選	宮崎県知事賞	中田由美子	聖泉	杜甫詩
準特選	延岡市文化連盟会長賞	植野寿美	寿泉	霍山
奨励賞	延岡市議会議長賞	古田勝太	勝柏	塵鏡外一首
奨励賞	延岡市教育長賞	甲斐タツ子	柏苑	書夢中
奨励賞	旭化成(株)延岡支社長賞	上野和子	和風	春すぎて
奨励賞	宮崎日日新聞社賞	佐藤ナオミ	翔華	家兄信宿焦山有寄
奨励賞	延岡市歯科医師会長賞	荒巻孝行	大心	刻舟求劍
努力賞		岡村公子	瑛翠	浮碧楼に登る






招待作家	岩 下 基	シュンライ ショウシセンク 春来 蔣士銓句
招待作家	大 塚 洋 子	ヨウフウ ケイユウニワカレトウアニユク 葉風 別京邑之東阿
招待作家・無鑑査	西 村 香 枝 子	ワコウ バンセイヨウジョウ 和香 晚晴江上
無鑑査	植 野 春 雄	セイホウ リョヤクワイフシヨス 聖鳳 旅夜書懷
無鑑査	西 村 寿 洋	ゲンヨウ トウゼンジ 玄洋 東禪寺
無鑑査	山 浦 秀 子	ハクシュウ オモイヤル 柏秀 遺懷


入 選

青柳有伸	有玄	柳宗元詩
池田文恵	恵翠	南江夕照
伊藤由美子	春華	日向刈干切唄
上杉秀子	秀香	楊柳湾晚歸
植野幸雄	竹山	李白詩
植野洋一	桂石	眞山民詩
上原幸子	香玉	送穆越州他
牛迫孝子	春香	陳有守詩
岡崎亜希子	一華	薛瑄詩
小田千穂	紅扇	あづさゆみ
小野静	麗華	隋宮
甲斐かおり	香風	吳蘭雪詩
河内真弓	柏真	擬陶
城戸裕行	鳳翔	雨外一首
城戸雅子	富翠	崔評事弟許相迎
小坂千代子	千草	李白詩
坂本淳	静峰	得心應手
篠原和子	和葉	冬日偶然作
田中健一	稜山	春夜別友人(陳子昂)
谷口隆幸	鶴城	趙秉文詩

丹波のり恵	瑤翠	初出江口
年森恵	祥雲	杜甫詩
中須昭子	昭苑	章有渭詩
奈須智子	-	愚公移山
難波和恵	柏舟	李白詩
新名美幸	秀瑛	叔父季思別業
西田幸市	天外	楷書千字文
西田登美子	美風	區大相詩
延時文子	香鈴	辛德源詩
羽田久美子	祥苑	允禧詩
服部一夫	悠山	劉嗣綰
服部幹子	嶺水	王漁洋
原田さゆり	桑峰	蘆溝曉月
前田佳代子	佳泉	王文治詩
柳田寿美蔵	空雲	幾山河
矢野稔子	-	允禧詩
山下昭良	祥泉	雲從龍風從虎
山本加代	涛香	江行
米田忠雄	祥雲	冬日歸舊山
渡邊康子	翔香	感懷



写真



特選	延岡市長賞	山口敏夫	なかよし
準特選	延岡市文化連盟会長賞	乙部武志	ほたる花
準特選	延岡市文化連盟会長賞	甲斐靖一	アオサギ
準特選	延岡市教育委員長賞	甲斐民人	つばめさんバイバイ
準特選	延岡市教育委員長賞	戸高一	紫陽花ロード
奨励賞	延岡市議会議長賞	川越洋治	僕にも頂戴
奨励賞	延岡市医師会長賞	高島章碩	祭のリズム
奨励賞	延岡商工会議所会頭賞	水津保	出展前夜(B)
奨励賞	夕刊デイリー新聞社賞	川野政弥	笑顔
奨励賞	延岡市西臼杵郡薬剤師会長賞	矢野仁祺	水鳥の朝
奨励賞	センコー(株)延岡支店長賞	甲斐直志	談笑
奨励賞	延岡市美術展覧会実行委員長賞	柳田実男	皆既日食の時
努力賞		鈴木末博	夢のあと
無鑑査		高橋ミサ子	生きがい





入 選

阿 部 節 子 胴上げ
飯 干 福 茂 里山に舞う姫蛍
家 森 忠 雄 繕い
池 田 晃 二 満面の笑み
伊 東 英 一 雨あがり
井 上 政 範 童心にかえって
岩 切 恵 美 子 春風
植 野 浩 人 無気力ですが、何か？
大 石 隆 治 神の舞台
大 川 内 かつ 子 桜の下でジャンプ
岡 崎 宏 之 あそぼ
緒 方 正 光 夢あかり(葛茨)
押 方 徹 祭りの子達
甲 斐 キ ヌ エ 雫の花
笠 村 陽 一 美彩の秋
川 上 和 雄 姉妹達の水遊び
川 路 澄 夫 漁船
菊 地 稿 治 早春の駅
菊 池 貢 朝陽を浴びて
木 谷 靖 明日への希望
清 永 俊 記録
黒 木 男 メルヘンの夜
幸 崎 善 五 郎 ひょっとこがいっぱい
小 谷 節 子 大漁
児 玉 美 智 子 雨あがり
木 場 富 次 光跡
小 松 清 春 肥薩線
坂 脇 昭 吉 熱いお正月
佐 藤 卓 志 コンコルド
佐 藤 傳 夜明け
重 松 伸 英 田植のあと
重 黒 木 周 作 Sunday
周 防 政 幸 古里のおばあちゃん
鈴 木 久 人 夏はやっぱりこれだよ

雀ヶ野秀憲 なかよし
高 木 幹 生 花くれない
高 萩 和 夫 深淵の彩り
竹 内 寛 お湯差し
田 上 誠 お大師様
千 葉 雄 一 のべおかを見つめて58年
趙 亜 鳴 時が滲む朝
年 森 徹 長浜AM456
永 田 能 夫 疾走
長 友 道 生 まつりの女
中 野 孝 一 花あかり
中 村 康 政 想い出
新 名 邦 英 迎え火
新 名 光 子 パワー、ちょうだい!!
西 原 知 里 陽だまりの郷
新 田 芳 則 瞑想
花 畑 絢 子 オレとわたし
馬 場 和 久 エッサッサ
藤 田 一 明 舞う
船 越 孝 太 郎 ときめき
松 尾 香 代 子 秋の詩
松 田 菊 治 アカショウビン
御 手 洗 実 夕日を浴びて
宮 良 信 道 タイムスリップ
三 輪 政 弘 フェイス(玉虫)
守 田 敏 和 錦秋
守 田 陽 子 出番前
森 守 砂の馬
柳 田 か お り 卒業おめでとう!
山 田 悦 子 港の花火
結 城 豊 廣 ある漁村の女子会
横 山 守 いろなきかぜ
和 田 章 良 鉄柵の中で

審 査 講 評

審査員の氏名は、敬称を略させていただきました。）

【洋画部門】

熊本市（崇城大学教授・日展会員） 熊谷 有展

歴史ある第65回延岡市美術展覧会の洋画部門の審査を務めさせていただきました、熊谷有展と申します。1点1点の作品の良さを見落とす事がないよう、何度も見直しをしながら審査にあたらせて頂きました。

今回の審査を通して私なりに感じたことを、少々書かせていただきたいと思います。

まず、特選・田中節子さんの「祈」ですが、広い空間の中に生き生きとした子どもと、大きくどっしりと前を向く母親の姿が描かれた佳作です。題名にある「祈」。現代社会の中でおこっている、信じられないような悲しく寂しい親子の事件や、人間の絆を今一度考えさせられるような悲惨なニュースを聞く度に、私も筆を執っては何か出来ないだろうかとお抗っているところです。残念ながら思うような成果は得られていないように感じておりますが、私なりに制作を進めていきたいと思っております。その上で田中さんの「祈」が叶う事を、期待せずにはられません。

準特選・柳田也寿志さんの「散歩」は、強烈な色彩と共に、様々な形態感や画面構成がなされ、ユーモラスな中に力強さを感じる作品です。少々未成熟な部分もありますが、それは弱点でもあり魅力的でもあります。

準特選・アーナー恵子さんの「恋をした風神・雷神」は、恋の内容はさておき、画面構成の面白さ、色彩感覚の良さ、書を思わせるような黒い線の勢いが画面に良い緊張を与え、リズムカルで面白い表現となっています。

その他、力作揃いの奨励賞の作品の中でも、最後の最後まで準特選にしようかと迷いました奨励賞・石丸圭汰さんの「再出発」。軽トラックの荷台に青いかたまり、何が入っているのでしょうか？しっかりとモチーフと向き合い、そこから生まれる発見を表現したのでしょうか。17才の若い方とお聞きして少々ビックリ。今後がとても楽しみです。

赤澤隆さんの「サウナ」は、ユーモラスな形態感と色彩の美しさ。

ゼンヤ・フェドチェンコさんの「無題Ⅰ」は絶妙な表現力。

落合直文さんの「母里の記憶」は、色彩とマチエールの力強さ。

林弘之さんの「ウィンチ」は調和した画面の美しさ。

努力賞・藤岡彩さんの「変わりゆく」は、作品に真面目に取り組み、これから感じさせる力がありました。

今回惜しくも入選とならなかった作品の中にも、きらりと光るものを持った作品が数多くありました。また次回の挑戦を、期待しております

私も非力ではございますが、何かまたお手伝いさせていただける事がありましたら、直ぐにでもとんでまいりたいと思っております。

最後になりましたが、延岡市美術展覧会のますますのご発展を心よりご祈念しつつ、審査講評とさせていただきます。

【日本画・水墨画・ちぎり絵等】

熊本市（画家） 姫野 豊

第63回展に続きこの部門の審査をさせていただきました。

この部門の領域の違う作品群を一にした評価をするのは大変難しいものがありますが、まずはそれらの特徴等をふまえ作品をとおして拝見しました。

<日本画・水墨画>作者の自然観にもとづいて伝統的な表現法を学び、さらに色・形・地肌などの造形要素を扱いながら構成力を昂めて新しい日本画をめざす。

<ちぎり絵・切り絵等>科学的な色彩の知識をもとに、抽象画(よう)の画面構成をしたり、刀(とう)などを使った製作技術の向上につとめたりして、緊張感ある作品の制作をする。これらの表現をふまえ、次の①、②及び③と共通する留意点をあげて審査の参考にしながらすすめて行きました。

- ① 対象の良さ美しさをどれだけ造形的に高めて表現したか。
- ② 技術と技能の習熟の度合いはどうか。
- ③ それぞれの領域の出品点数。

特選「ひまわりの詩」自然をみつめ、感じる度合の微妙さは日本人独特の感性だと思います。木漏れ日に映ゆるひまわりの情景が、色(紙)を重ねることによって微妙に表出されているのが美しい。ひまわりを包む空間のとらえ方も素晴らしいと思います。

準特選「涯」モチーフを見る角度を変え、不自然さを自然さに換えようとする意欲がみてとれます。また、ほおずきの質感の表出の密なるものと、水墨調の淡泊と墨色の対比が面白く、実験的な試みにひかれました。

奨励賞「一瞬目線は上に」画題を以って対象の厳しさを自覚し、それを水墨画で表そうとする意欲に賛同した作品です。川面から空へ抜ける空間感がよく表されています。今後は墨色の扱い方について伝統的な技法の習熟を待ちたいと思います。

努力賞「祈り」構図のとり方に魅力があります。同時法(視点をかえながら立体的な表現をする。)に似た試みが今後の作品に活かされるのではないかと——楽しみです。

その他入賞は逸しましたが……………。

切り絵の「綾の古民家」は小品ですが技能的に優れ、「IRICO」は身の廻りから題材を選ぶという見地から好感がもてる作品です。ちぎり絵の「窯炎」モチーフの選び方がいいと思います。炎の生命感の表出に重きをおいたら一層いい作品になるでしょう。「ねぎぼうずの詩」「記念日」は三賞の候補に挙げた作品でした。

【彫刻・工芸部門】

宮崎市(宮崎大学教育文化学部教授) 石川 千佳子

今年は彫刻、現代美術的なオブジェの出品がみられず、陶芸、染織、刺繍、キルト、竹工芸といった伝統工芸に近いものが多数を占めました。どちらかといえば日本画に近い染色と、彫刻的な要素の強い陶芸とを同時に評価することは難しいのですが、美術全般に共通する造形力と表現力という視点で、入選および入賞作品を選んでまいりました。

染色と陶芸は本部門の中心です。特選となった「縄文灯り」は、昨年よりも形態が引き締まり、シルエットが端正になりました。照明という機能と造形、陶芸技術がバランスよく融合された点が高く評価されます。

一見伝統的な花の文様のように、瑞々しい描線に目を奪われるのは、準特選の「僕から彼女へのプレゼント」です。題名も微笑を誘いますが、型にとらわれない発想とデザイン的な展開が今後期待されます。さらに染色では、草花の丹念な観察と写生を繰り返したと思われる「初夏のかおり」を努力賞としました。

今回は、キルトも出品作が減少しています。しかし、奨励賞の「こもれび」は尾瀬の風景でしょうか。柔らかな黄から緑への色彩の諧調と、木の枝の抽象的な構成が活かされたレベルの高い作品です。

常に写しであり、高度な熟練を要する面は評価が厳しいジャンルですが、抑制された深い感情表現が求められる「景清」への真摯な挑戦を、奨励賞としました。

全体としては、最初にも述べたとおり、立体造形、特にジャンルの融合や横断を試みる現代的な作品がゼロでした。若い層から、無鑑査作品に続く造形が生まれてくることを期待したいところです。また、伝統工芸では、竹工芸のように、県北の地域に根ざしたジャンルにも積極的に取り組む方々が増えてほしいと思います。

最後に気づいたことを一つ。「島の風景」のようなジオラマ的な要素を含む作品では、台座部分の作りによって見え方が全く違ってきます。「涼感花かご」など異素材を組み合わせた作品にも共通しますが、作品を制作する際に、中心部分だけではなく組み合わせのバランスや、いわゆる背景＝地と対象＝図の関係を意識してみてください。

【グラフィックデザイン部門】

福岡県（九州情報大学理事・客員教授）宮木 英幸

今年は「戦後 70 年」、「延岡大空襲から 70 年」。悲惨な出来事を乗り越えて新しい生活を目指す熱意の中で産声をあげた延岡市美術展は、本年度で 65 回を数えると言う。その成果について、美術展が延岡の戦後の美術の歴史を築いてきたことは尊いものであり、延岡の誇りでもあるだろうと忖度する。今後この美術展を担う「いま」の人達が「何処」を目指して発展させていくのか大いに期待されることである。

今回のグラフィックデザイン部門は出品点数の激減で、審査をする立場としても多少の戸惑いを覚えた。

特選、河野英樹氏の「城山の春」は延岡城・城山公園の千人殺しの石垣と満開の桜、それに恐らく作者の青春の一場面であろう日常的なシーンを配したひとこま、誰もが安心して画面に同調しながら自分自身の青春の世界にいざなわれる。作者は昨年度から「延岡の観光」をテーマにしたポスターを連作されているもので、描画の巧みさは言うまでもなく、的を絞った明快なコンセプトワークがポスターとしての完成度を高めているところを評価した。画面の中心とも言える若者の二人の人物をもう少し目立つ色彩を用いるなど魅力的なシーンにまとめていれば、見る人により深く迫る事ができたのではないかと思う。

努力賞、渡辺 桃香さんの「あくびの魔法」はダイナミックで迫力のあるイラストレーションが素晴らしい。決して上手い絵ではないが、人を強く惹き付ける。これに対するコピーが「女子力低下中・・・」は自信のないメッセージに思える、逆に若い力を前面に出して、例えば「女子力全開：あくびの魔法」等とすれば積極的に澁刺とした女子学生のイメージへと転換される。今回、女子学生の出品は 4 点あったが入選点数制限により 2 点の入選に留まったのは選者として残念に思う。というのはこれら 4 点の作品の間に優劣の差は殆どなく、選者の気持ちは 4 点をまとめて 1 つの努力賞のつもりであり、その代表として渡辺 桃香さんへの授賞となっている。4 人とも若者らしい視点で制作しており将来が楽しみな女子学生達である。松崎 空さんの「SOS サイン」を見て「白杖」を掲げることが目の不自由な人の「助けを求める」サインであることを私は初めて知った。他に、立石利宏さんの「地球異変」は緻密なイラストレーションに、古川友江さんの「鳥の言葉」はピアズリー風の幻想的なイラストレーションに興味をそそられた。

【書道部門】

熊本市（日展会友・読売書法会理事）江上 蒼龍

昨年に続いての書道部門の審査を担当させていただきましたが、良い作品が多く選外作品を選ぶの

に苦労しました。入賞させたい作品が他に数点ありましたが次回にまた挑戦していただきたいと思えます。

入賞作品の短評を申し上げますと、

特選の飯干千峰さんの作品は、墨量を充分に入れながら線の肥瘦の変化があり、文字に大小を織り交ぜながら行も真直ぐに通って豊かな情感で書いている。

準特選の中田聖泉さんの作品は、横書きで線も太めで墨も潤沢に入っている。行数も多いが窮屈な感じがなく堂々の書き振りである。同じく植野寿泉さんの作品は、縦四行の多字数作品だが行間を充分あけて明るく収めています。線は太くはないが強さがあり、筆勢よく書き進めて統一感がある。色紙の効果も出ている。

奨励賞の古田勝柏さんの作品は、漢字かな交りの調和体作品で多字数を五行に書いて、墨が充分入り線のボリュームも充分で墨量の変化がある。行間を充分あけて明快な作品とした。同じく甲斐柏苑さんの作品は、三行に書いて少し滲むくらいに墨量多い部分を作って大変効果的である。同じく佐藤翔華さんの作品は、運筆よく動いて軽快である。行も真直ぐに通る字幅の変化もよく出ている。同じくかな作品の上野和風さんの作品は、三首を書いて、文字の大きさ、行の縦の長さや行の間隔に変化をつけ、よく纏めている。同じく篆刻作品の荒巻大心さんの作品「刻舟求劍」は力強い刻りで雅味のある作品である。

努力賞の岡村瑛翠さんの作品は、横物作品で、運筆よく動いて軽快な作品とした。

書の勉強に近道はなく古典を学び一枚でも沢山書くこと以外にありません。入賞された方々の一層の精進とご活躍を期待し、延岡市美展の益々のご発展を祈念いたします。

【写真部門】

東京都（写真家、プロデューサー） テラウチマサト

第 65 回目となった延岡市美術展覧会、審査にあたり牧野哲久延岡市文化連盟会長から「今から 65 年前といえば、戦後の復興期。その時代にまずは延岡から文化を発信するとの思いで先人が生み出し、築いてきた歴史ある展覧会」という、大変に重みを感じる主催者側の説明を聞き、その歴史の一端に審査員として加われることを光栄に感じ、同時に審査する気持ちをまた新たにしました。

長い歴史を持つだけのことはあり、さすがに実力ある作品がたくさん提出されていた。

一人で二点出されている優れた作品群の中から 1 点に絞るというもったいなく惜しい体験も審査中に幾度かあった。そんな多数の応募作品から特選となった「なかよし」は今年の展覧会の会場を温かい気持ちさせてくれるおばあちゃんと犬を撮った写真である。まるで家族のように可愛がられている犬に対するおばあちゃんのお気持ちを、温かに感じる日差しの中で上手に表現している。愛しむ心を、光とカメラアングルと、おばあちゃんの仕草や表情で捉えており見事だ。そんな写真表現技術を高く評価した。準特選の 4 点もレベルの高いバラエティに富んだ作品となった。「ほたる花」という姫蛍の群生作品は、デジタルカメラならではの作品。望遠レンズで引き付け、長時間露光の結果だとしても、蛍の圧倒的な数に只々驚かされた。「つばめさんバイバイ」は赤い帽子を被った可愛らしい園児の後ろ姿スナップ。特急つばめの黒い車両のブレ具合が赤い帽子の子どもたちを際立たせ写真ならではの見せ方になっている。連で応募の「アオサギ」と「紫陽花ロード」は、写真展のテーマとしては目新しいものではないが、シャッターチャンスを待つ辛抱とそのチャンスに卓越した表現技術で応えた作品は見えて心地いい。奨励賞や努力賞においてもチャレンジングな作品があり、また入選作品の中にも上位に行っても見劣りしない作品があり、この写真展のレベルの高さを伺うことができる。第 65 回の延岡市美術展覧会の展示がとても楽しみである。



◆第65回『延岡市美術展覧会』作品出品状況

※（ ）内は昨年度

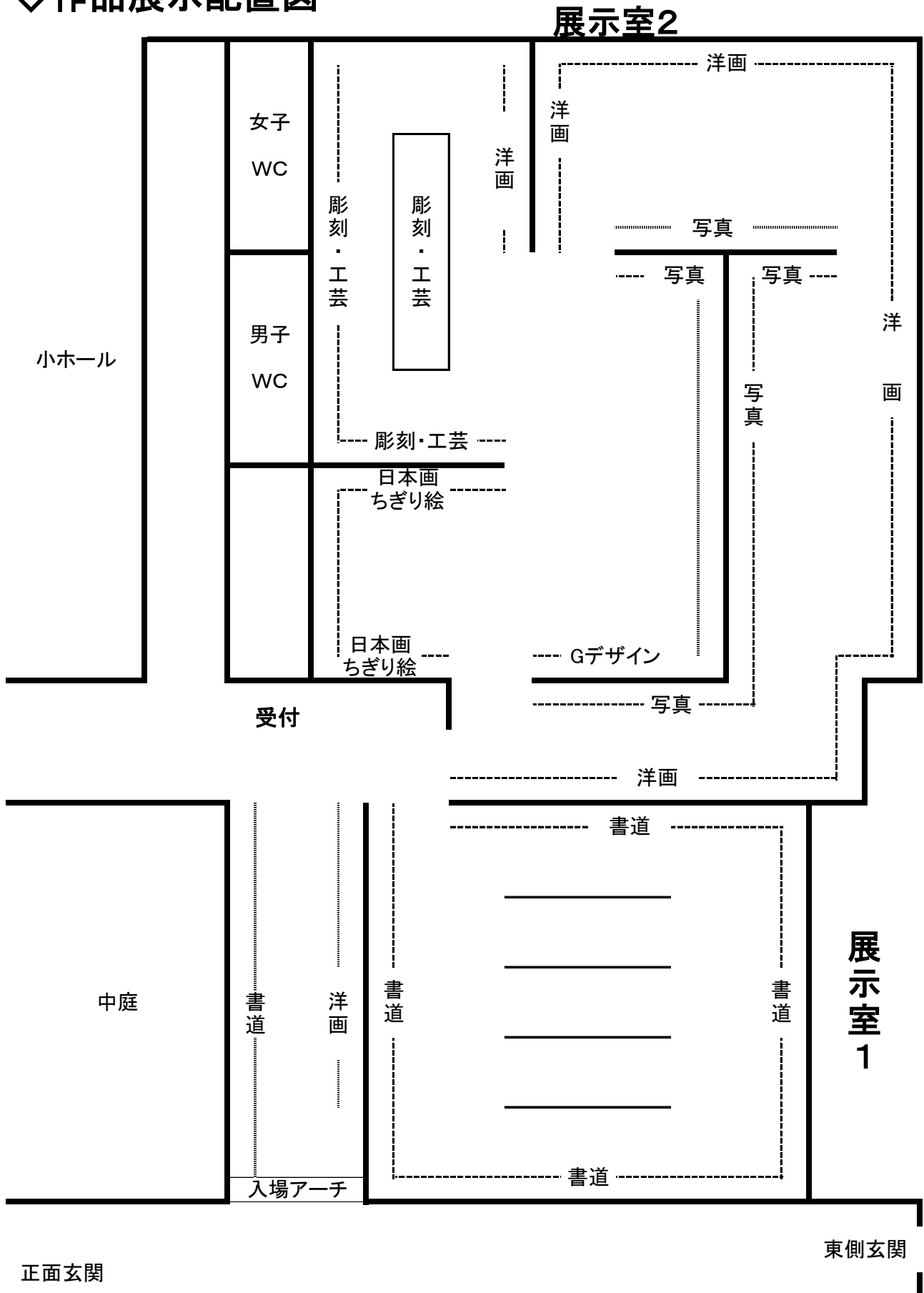
部 門	出品者数		出品作品数			C 招待作家 無鑑査	合計 (無鑑査等含む)	
	A	うち2点 出品者	一般	学生	B 小計		出品者数 A+C	作品数 B+C
洋 画	65 人 (70)	13 人 (9)	61 点 (57)	17 点 (22)	78 点 (79)	3 人 (4)	68 人 (74)	81 点 (83)
日本画・水墨画 ちぎり絵等	18 人 (22)	1 人 (2)	19 点 (23)	0 点 (1)	19 点 (24)	1 人 (1)	19 人 (23)	20 点 (25)
彫刻・工芸	25 人 (38)	7 人 (6)	32 点 (33)	0 点 (11)	32 点 (44)	3 人 (3)	28 人 (41)	35 点 (47)
グラフィックデザ イン	7 人 (23)	0 人 (0)	3 点 (3)	4 点 (20)	7 点 (23)	0 人 0	7 人 (23)	7 点 (23)
書 道	68 人 (61)	0 人 (0)	64 点 (58)	4 点 (3)	68 点 (61)	6 人 (5)	74 人 (66)	74 点 (66)
写 真	111 人 (112)	43 人 (45)	153 点 (155)	1 点 (2)	154 点 (157)	1 人 (2)	112 人 (114)	155 点 (159)
合 計	294 人 (326)	64 人 (62)	332 点 (329)	26 点 (59)	358 点 (388)	14 人 (15)	308 人 (341)	372 点 (403)

※<招待作家>…全国規模の公募展で、顕著な結果を残された方の作品

※<無鑑査>…「特選 延岡市長賞」を通算3回受賞された方の作品



◇作品展示配置図





写真部門 特選
「なかよし」



日本画・水墨画・ちぎり絵等部門 特選
「ひまわりの詩」



彫刻・工芸部門 特選
「縄文灯り」